

諦めていたことを
実現させていくことの大切さ。

NPO法人くすの木自然館は、鹿児島島の豊かな自然を後世に引き継ぐことを目的に、人と自然の持続可能なつきあいなどの環境教育を推進している団体で、始良市にある「重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム」を受託運営しています。くすの木自然館では、障害のある人もない人も海を楽しみおための「ユニバーサルビーチ」という取り組みを行っており、その中心にいるのがくすの木自然館の石神愛梨さんです。

石神さんはユニバーサルビーチの活動推進のため各地を訪れる中で、電動モビリティの「ウィル」に出会いました。「ウィル」は、すべての人が利用できるもの“というコンセプトのもとに開発された、片手で移動操作ができる次世代型近距離移動手段です。石神さんは、「海岸を楽しめる方が増えるといいな」という思いから、2025年2月になぎさミュージアムでの貸出を始めました。

NPO法人 くすの木自然館



研修を受けたサポーターが準備から片付け、海の中のサポーターなどを行う



障害の違いや体の大きさなどに応じた、ビーチを楽しむ水陸両用の車椅子が用意されている



狭い道やごぼごぼ道などでも、安心して快適な乗り心地の「ウィル」



ユニバーサルビーチはスタッフの石神さんが中心になって担当



利用者の方の安全に配慮しながら笑顔で接するサポーター

「体の不自由な人だけでなく、誰もが移動手段として使用できます。重富海岸の松の木の下を通る、まっぼっくりロード」などをゆっくり散歩できますよ。」と石神さん。

この他、NPO法人くすの木自然館では、重富海岸で水陸両用の車椅子を使用した「誰もが海を楽しめるユニバーサルビーチの活動」を実施しています。2025年8月に行われたイベントでは、参加者は海に浮く車いすに乗り、10名ほどの研修を受けたサポーターとともにビーチへ。フロートやライフジャケットを着用して水に浮いたり、桜島をバックに写真を撮るなどして楽しみました。石神さんは、「ユニバーサルビーチの活動は、これまで諦めていたことを実現する体験ができます。海に入るだけがゴールではありません。障害や年齢、病気があるために諦めていたことを、できたに変える体験と一緒に楽しみたいんです。」と話してくださいました。

現在、ユニバーサルビーチの活動は、重富海岸だけでなく、県内各地の海岸にも広がっています。

また、「施設をユニバーサルデザイン化する事にはお金や時間がかかりますが、受け入れる人たちの対応や考え方も変えることで、できることが増えるんです。」と話し、「キッチンカーなどが出店するユニバーサルデザインを取り入れたマルシェを開催するなど、今まで以上に重富海岸を障害の有無を問わず、誰もが楽しめる場所にしていきたいです。」と今後の展望を話してくださいました。

ウィルの貸出しやイベントについての
お問い合わせはこちらへ

NPO法人 くすの木自然館

〒899-5652 始良市平松7703

TEL: 0995-67-6042 FAX: 0995-57-7337

くすの木自然館 検索

